



専門講座が始まりました。それぞれの校種・職種で求められる資質や実践的指導力について学ぶ良い機会です。1回目は小学校・中学校の学級経営の専門講座でした。皆さんはどのようなことを学び考えたのでしょうか。

中学校における学級経営～協働活動の視点から～ 講師 大村 隆之 主任指導主事



1 全体会

私が今日の講義で印象に残ったことは、「3年間を見通した学級経営」という言葉です。現在大学で取り組んでいる教員採用試験に向けての面接等で学級経営を考えることがあるのですが、どうしても1年間にフォーカスした内容になってしまいがちなので、1年～3年と、本当にその時期に育てたい力を目標として掲げたいと思いました。教師はトラブルが起こった際に、それを生徒の成長に役立てるための手助けをしなければならないと思うので、それができるだけ力量を身に付けたいです。

2 分散会

分散会のグループでは、主に4つのジャンルに分かれました。「集団で役割を与えること」「褒めること」「コミュニケーションをとること」「失敗を認めること」です。自分自身が集団の中で役割を与えられると責任感が生まれることにつながります。それを果たした時に「褒めて」あげて、生徒の自己肯定感を高め、学級で共有したり、学年の先生方に報告したりと「コミュニケーション」を介して伝えます。もし失敗したとしても、よく頑張ったねとフォローし、生徒のことを「認め」ます。この一連のサイクルが、生徒の肯定感を高め、もっといろいろなことにチャレンジしてみよう！という気持ちにつながるのではないかと考えました。

3 まとめ

現在の私の課題は、「自己・他者肯定感を高めること」です。まずは自分が自己肯定感を高めなければ、生徒にその感覚を味わわせることは難しいと思うので、たくさんの人とコミュニケーションをとって刺激を受けることで、磨いていきたいと思います。さらに、人の良いところをたくさん見つけ、常に言葉にすることで、将来教師になった際に生徒のことをたくさん褒められると思うので、その部分も磨いていきます。身近なことから始めたいです。

トラブルが起こった際、失敗から、間違いから学ぶことの方が大きいものです。常日頃から、失敗の許される雰囲気作りが大切です（もちろん、手抜きによる失敗とは区別が必要ですが）。今回は私がお話したことに対するレポートなので、コメントするのもなかなか難しいのですが、少しでも参考になる様な内容であったなら幸いです。何でも質問や疑問のあるときには、気軽に声をかけてください。

小学校における学級経営～協働活動の視点から～ 講師 日比 淳子 指導主事



1 全体会

私が今日の講義で学んだことは大きく2つあります。1つ目は、「良い雰囲気クラスにするためのルール作りをすること」です。私は今、学校ボランティアで1年生の教室に入らせていただくことが多いのですが、初めは「1年生にしては少し厳しいくらいのルールの徹底ぶりだなあ」と思ったこともありました。でも、そのルールがあってこそ落ち着いた環境で学習ができたり、友達とうまく協力して物事に取り組んだりすることができるということが徐々に分かってきました。ルールを「しぼるもの・厳しいもの」というイメージ・視点で見るとは「みんなが気持ちよく過ごすためのもの」「落ち着いて勉強に取り組むためのもの」というプラスの視点で捉え、学級経営に活かしていきたいと思いました。2つ目は、他の講義でも学んだことですが、「何事にも根拠をもつ」ということです。褒めるにしても叱るにしても、根拠のない言葉は子どもには届かないということを改めて理解しました。この「根拠をもって言葉を発したり行動したりする」ということを教育現場ですぐ実践できるよう、今のうちから普段の生活の中でこのことを常に意識することにします。

2 分散会

分散会では、「学級経営で育てたい力をどうつけるか」というテーマについて具体的に考えました。私は、「教師が鏡になる」というキーワードを挙げました。その理由は、私が目指す教員像の一つに「子どもに全力で物事に取り組むことの素晴らしさを伝えられる教員」というものがあり、そのためには教員自身が見本でもなんでも全力で、本気で取り組む姿を見せ、その上で笑顔やポジティブな言葉で子どもたちと向き合うことが大切だと考えたからです。口だけでいうのではなく、全身で「子どもの鏡」になれるような教員を目指します。

3 まとめ

1で書いたルール作りに関する事で、その徹底のためには、ほどよい厳しさが必要だと考えました。愛情をもった厳しさなら子どもも分かってくれると思うので、そういう面も持っていきたいです。

このページは、ぜひ今後も読み返せるといいですね。その通り！と思う大切な事をもっと簡潔にまとめてあります。学校現場にいる限り大切にしたい基になる事です。こうなって欲しいから、これが大切だから、と子どもに対してきちんと根拠をもって取り組む先生の本気の姿は、必ず子ども達に届きます。教師自身の都合でない本当に必要とするルールや学習規律も、子ども達には分かるものです。

中学校



分散会の様子



小学校



子どもたちの今と未来のため、社会のあらゆる場で
子どもと共に育む都民協働を实践しましょう！

